

令和5年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

学校名(滋賀県立彦根工業高等学校)

1. 取組についての評価

・各学年に学校設定科目を設置し、1年で近江商人哲学やキャリア学習を行う「近江マイスター」、2年で実習を進化させた「ブラッシュアップ」、3年で「プログレス実習」と3年間見据えて、地域の文化や産業を新しい技術と組み合わせ、次世代人材育成につなげようとする取り組みであり、その実践を試みてきたことは評価できる。彦根工業ならではの「不易と流行」を併せ持つ地域の特色を生かした人材育成を目指した取り組みである。

・専門力の育成のみならず「職業人に求められる倫理観の育成」を「非認知能力の向上」と捉えその能力のデータ化を試み、大学、企業と連携しながら試みてきている。個人カルテ等を作成して社会が求められる人間力について、しっかりとした分析がなされている。

・次年度からの自走に向けて生徒・教員・企業アンケート・管理機関ヒアリングなども行い三位一体となった共創体制を継続しようと十分に準備されている。

2. 今後の課題と考えられること

・地に足が着いたこれまでの取り組みであるが、はじめの構想では、近江商人の哲学の心構えをもってDX等の新しい技術にも対応出来る「人財」を育成することを掲げ、その中にはビッグデータ分析などICT・デジタル教育で高等教育機関との連携を図ることも事業としてあげられていた。3年間の取り組みでは3Dプリンターやプロジェクションマッピングなどの新技術の挑戦が見られ、評価できるものであるが、次のステップへ移行するに当たり、ICT・デジタル教育において高等機関との連携を深めることは次代をリードする産業人の育成に一層つながるものと考えられる。